

～南陽を拓いた古代豪族の墓～ ^{にいろね} 二色根二号墳

県指定有形文化財（史跡）

今から 1300 年前、奈良時代の米沢盆地は統一日本を創った倭王権の北進前線にありました。1400 年前の古墳時代には吾妻山の南まで倭王権政府の役所が置かれていました。東アジア諸国の緊張関係から国土統一を急ぐ倭王権は、7 世紀半ばから米沢盆地に進出してきたのです。倭人とは異なる蝦夷えみしの住む米沢盆地には、優喙曇郡うきたむが置かれ優喙曇柵うきたむのさくを拠点に移民と蝦夷の混在する地域ができました。南陽市の吉野川扇状地等の平地は古墳時代までの水田に加え次々と拓かれ、広い水田地帯となっていきました。移民や水田耕作をする蝦夷の村々の長である豪族たちは、主に赤湯から蒲生田山にかけての地域を墓地として、石積みの石室を盛り土で覆う墓を造りました。いずれも数基から 10 基程度が群集する、南向きの横穴石室をもつ小規模な古墳は、終末期古墳と呼ばれる飛鳥・奈良時代の墳墓です。古墳時代が終わって飛鳥時代になっても、地域によっては横穴墓と共に 8 世紀まで造られ続けたお墓です。米沢盆地では飛鳥時代の優喙曇評うきたむのこおりや奈良時代の置賜郡の豪族たちが埋葬されました。

二色根古墳群は、戦国時代に二色根城があった二色根山の南山麓部にあります。この付近は山城の根小屋（平常の居城）が置かれたところに近く、一部壊された可能性もあります。6 基発見されており、南北に長い石室平面が胴張型のものと長方形のものと 2 種類あります。胴張型で最大の規模を有する二号墳は、長さ 240cm×幅 140cm×高さ 180cm で入口通路の長さは 140cm あります。

石室内からは埋葬時に副葬された装飾品の銀環等、役人の位階を示す帯金具、武器の鉄ぞく（鉄



製のやじり) や刀、日本有数の古い貨幣わどうかいほうの和同開珎が、須恵器はじきや土師器と呼ばれる土器と共に出土しています。このことから、最初は 7 世紀末の飛鳥時代に、次に 8 世紀半ばの奈良時代に埋葬され、そして追葬されたことが分ります。地方役人が用いた帯金具や都の平城京周辺でしか使われなかった貴重な和同開珎から、埋葬された人がどのような人であるか想像できると思います。

二色根古墳群はかつて 500 余あったといわれた赤湯古墳群を代表する貴重な古墳です。同時に置賜郡赤井郡・宮城郡を拓いた先祖の記念碑もあります。

南陽市文化財保護審議委員 佐藤鎮雄

平成 25 年 8 月 1 日号 市報なんよう掲載